



UReC Newsletter 創刊号

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017734



Newsletter

創刊号

[2022年7月]

発行

大阪公立大学
都市科学・防災研究センター

所長あいさつ – センター設立について –

都市の持続的発展を追い求める

センター所長 重松 孝昌

人類の進化・発展とともに、ひとの集い方は変わってきました。その一端を貝塚に見ることができるように、ふるくは水や食が得やすい場所に集落を形成しました。社会にインフラが築かれるようになると、城下町、みなと町、宿場町、門前町など、その地が持つ機能を求めてひとは集うようになりました。産業革命は近代文明を飛躍的に発展させましたが、これを契機にひとは職を求めて集うようになり、都市が形成されるようになりました。今や、都市はひとの生活に必要な食住職を満たす場としてだけでなく、生活を潤すさまざまな物資や情報が集積する場として、ますます、その機能を拡張しているように思えます。その結果、近代の都市は単独ではその機能を果たすことができず、隣接する都市のみならず世界中の都市との相互関係のなかでしか存

在できなくなってきました。すなわち、都市に住む私達は、常に世界とつながって生きていると言えるでしょう。そのことは、必ずしも快適さだけを享受できるということだけではなく、さまざまな人と繋がっているからこそその居心地の悪さを感じざるを得ないこともあるでしょう。

今後、ひとは都市でどのように生活するのか、そのために都市にどのような機能を求めるのか、私達一人一人が考えていかなければなりません。

大阪公立大学の開学とともに設置された都市科学・防災研究センターは、都市に関わる人々の活動をより良くするための課題解決に取り組むとともに、さまざまな災害から都市生活をまもり、都市の持続的発展に貢献したいと考えています。そのために、科学的知見の深化と理論の発展に努めるとともに、これを担う第一線の人材を育成することに努めます。多様な専門知の結び・紡ぎ・融合に取り組み、都市大阪をはじめとする諸都市においてその成果を実践し、みなさまと協働して社会に大いなる貢献を果したいと考えています。

副所長あいさつ

総合知としての都市科学の発展を目指して

センター副所長 阿部 昌樹

都市は、一筋縄ではいかない代物です。都市の実態を理解し、その問題点を解決するための実効的な方策を考案するためには、様々な学問分野のそれぞれにおいて蓄積されてきた知の全体を踏まえ、様々な学問分野のそれぞれにおいて彫琢されてきた研究手法を効果的に組み合わせ、研究を進めていくことが必要です。都市とは、既存の学問分野の枠を超えた、越境的な知の総合化が要請される研究対象なのです。

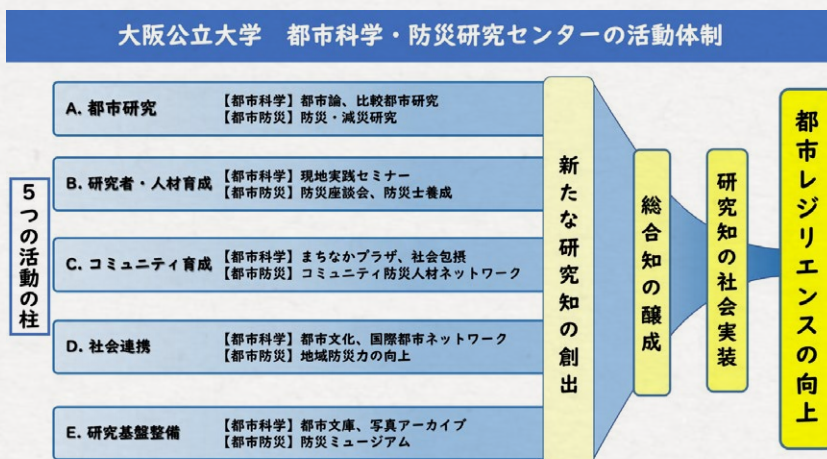
当センターの都市科学部門は、大阪市立大学都市研究プラザが展開してきた文理融合・多分野横断型の都市研究の成果を踏まえ、人口減少、高齢化、多文化化等の多面的な変化を経験しつつある都市が、それらの変化の結果として、あるいは、それらの変化にもかかわらず直面している諸問題の実態を、関連諸科学のそれぞれの分野における最先端の理論と、都市の現場における精緻な調査を踏まえて解明し、それらの都市問題への実効的で、都市の持続可能性の向上に資するような対応策を導出することに取り組んでいきます。また、共通の文化的伝統を有し、類似した発展経路をたどってきた東アジアの諸都市の研究機関や自治体と連携し、欧米の都市研究を相対化しうるような新たな知の創出を目指すとともに、次世代の都市研究を担う研究者の育成にも注力していきます。

レジリエントな都市づくりにむけて

センター副所長 三田村 宗樹

大阪をはじめとする関西圏では、南海トラフ地震、地球温暖化に伴う気象災害の増加などが危惧され、事前対応や防災力向上が求められています。一方、高齢化による地域の担い手不足、コロナ禍後のインバウンドや外国籍居住者の増加など、防災面での多様な対応が必要です。当センターの都市防災部門では、大阪市立大学の都市防災教育研究センター(CERD)の活動を引き継ぎ、コミュニティ防災人材育成や、多岐にわたる都市の防災力向上に向けた研究の推進を行います。現在、科学技術振興機構の助成による「多様なコミュニティをつなぐ防災リーダー育成プログラムの開発」研究開発事業で、地域の防災力向上の中核となる人材ネットワーク拡大を進めています。学内の各専門分野や分野融合での防災・災害関連の研究を推進・活用しながら、その普及・社会実装へ向けた取り組みを行います。都市防災部門の体制として、「コミュニティ防災教育」「都市防災研究」「社会連携」の3つ

を主な柱とし、それぞれにリーダー・サブリーダーを置いて活動するとともに、都市科学部門とも連携を図り、より広がりを持った活動を行います。国内・海外の展開については、公立大学防災教育研究センター連携会議を通じた共同研究や協働により進める予定です。CERDに引き続き、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。



メンバー紹介

専任教員



生田 英輔 IKUTA Eisuke

現代システム科学研究科兼任 / 教授
居住安全工学 / 博士(学術)
大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了、一級建築士、防災士。災害時の人的被害、避難行動、防災教育、コミュニティ防災などの研究に取り組んでいます。災害被災地での調査経験も活用し、地域や学校と連携した実践的な研究を進めています。



全 泓奎 JEON Hong Gyu

現代システム科学研究科兼任 / 教授
比較福祉政策論・社会開発論 / 博士(工学)
東アジアの都市自治体や関連研究者、民間団体等と連携しながら、貧困や排除、そして社会的包摂にかなする実践的研究を行っています。都市防災に関しては、都市の多様性やレジリエンス、災害福祉にかなするアクションリサーチを行っています。



野村 恭代 NOMURA Yasuyo

現代システム科学研究科兼任 / 教授
社会学・社会福祉学 / 博士(人間科学)
大阪大学大学院人間科学研究科修了。専門社会調査士、社会福祉士、精神保健福祉士。医療法人に勤務中。生活のつらさのある人の住まいに対する「施設コンプリクト」を知る。解決策が見出せないため自身で研究することに。2018年10月からは、防災つながり会テーマの番組「ハートフルステーション」(YES-fm、毎週水曜日10:45~)のパーソナリティを担当。

兼任研究員



阿部 昌樹 ABE Masaki

法学研究科 / 教授
法社会学 / 博士(法学)
我が国における国と地方自治体の関係の法的特質、地方自治体の活動に対する法的な制約、地方自治体による法律の実施、地方自治体による条例の制定と実施、地方自治体と住民との関係等について、とりわけ都市自治体に焦点を合わせて、法社会学の観点から、政治学や行政学の知見も加味しつつ、多面的に研究しています。



今井 大喜 IMAI Daiki

都市健康・スポーツ研究センター / 准教授
運動生理学・環境生理学 / 博士(医学)
都市防災部門では、災害の発生に対応する自助・共助の力を高めるために必要な知識や技術について研究しています。特に、自力避難および要援護者の避難に必要となる健康や体力指標について研究を進めています。



内田 敬 UCHIDA Takashi

工学研究科 / 教授
土木計画 / 交通工学 / 博士(工学)
視覚障害者の外出支援を中心に、広く包摂型社会へ向けた研究に取り組んでいます。
・視覚障害者街歩き支援の音声ARナビへのロボット技術の適用
・街歩き支援音声ナビと音環境VRシステムによる「こぼれ観光ガイド」
・バリアフリー法及び関連施策のあり方に関する検討
・多世代共生型地域再生のための障害者支援モデルの開発



海老根 剛 EBINE Takeshi

文学研究科 / 准教授
表象文化論 / 博士(文学)
現在の中心的な研究関心は、20世紀初頭(1900年頃~1930年代)のドイツ語圏における「群衆」をめぐる象徴的言説的分析です。加えて、人形浄瑠璃の「近代」の観客史的研究にも取り組んでいます。



大島 昭彦 OSHIMA Akihiko

工学研究科 / 教授
地盤工学 / 博士(工学)
地盤の圧密・締め固め・強度に関する基礎的研究から、地盤情報データベースに基づく大阪・神戸地域の地盤モデルの開発、大阪・神戸地域の地下水位低下による沈下予測と液状化対策、大阪・神戸地域の地震時揺れやすさマップの作成、住宅地盤のための地盤調査法の開発、夢洲(万博、IR敷地)の圧密沈下予測、などの応用研究を行っています。



岡崎 和伸 OKAZAKI Kazunobu

都市健康・スポーツ研究センター / 教授
運動生理学 / 博士(医学)
災害の発生に対応する自助・共助の力を高めるために必要な知識や技術について研究しています。自力避難および要援護者の避難に必要となる健康や体力指標の開発を行います。



荻田 亮 OGITA Akira

都市健康・スポーツ研究センター / 教授
生体分子生理学 / 博士(理学)
都市防災部門では、災害の発生に対応する自助・共助の力を高めるために必要な知識や技術について研究しています。特に、自力避難および要援護者の避難に必要となる健康や体力指標について研究を進めています。



垣田 裕介 KAKITA Yusuke

生活科学研究科 / 准教授
社会政策 / 博士(社会福祉学)
ホームレス・生活困窮者の実態調査を通して、今日に求められる社会政策のあり方について研究しています。社会政策や福祉の制度そのものの研究というよりも、これまで十分に明らかになっていなかった大都市や地方の生活困窮の実態について独自調査で明らかにするとともに、それに対応する社会政策や福祉実践の具体的な課題と解決策の検討を行っています。



嘉名 光市 KANA Koichi

工学研究科 / 教授
都市計画 / 博士(工学)
1968年生まれ。2001年東京工業大学大学院博士後期課程修了。博士(工学)、技術士(建設部門:都市及び地方計画)、一級建築士。都市計画、都市デザイン、都市再生論、景観デザイン、景観論。2015年度 日本都市計画学会賞 石川 水都大賞のまちづくり。2017年日本建築学会賞(業績)大阪府「生きた建築ミュージアム事業」による建築文化の振興。



金子 健作 KANEKO Kensaku

工学研究科 / 講師
耐震工学・制振構造 / 博士(工学)
東京工業大学の特任准教授を経て2021年10月に兼任。建築物の地震に対する耐震技術の研究を通して、将来起こり得る都市災害の軽減に貢献できると。現在は広域の地震動に関する機械学習、非線形有限要素解析などのシミュレーション技術、3D都市モデルによるデジタルツイン、構造ヘルスマニタリングの各研究分野を横断的に連携して、地震発生後の迅速な初動対応に資する創発的研究に挑戦しています。



川合 忠雄 KAWAI Tadao

工学研究科 / 教授
診断工学 / 博士(工学)
機械やインフラ構造物に生じる損傷を画像解析や打撃試験により評価して、損傷の発生やその程度を求める診断手法について研究しています。特に、維持管理業務におけるCIM(Construction Information Modeling)の展開につなげることを目指しています。



神崎 祐貴 KANZAKI Yuki

理学研究科 / 特任講師
分子磁性・電子スピントロニクス / 博士(理学)
塩水を電解液に用いた非毒・安全な新しい水系有機二次電池や、電気二重層キャパシタを大学発ベンチャー(三谷電池(株))と共同開発しています。これらを搭載した防災用スマートフォン充電器(自治体用)を大阪府危機管理室、東成区役所、三谷電池(株)と連携し開発し、都市防災強化に向けた取り組みも進めています。



貫上 佳則 KANJO Yoshinori

工学研究科 / 教授
水処理工学 / 博士(工学)
下水道による水質浄化や有害物の処理対策、下水道施設における再生可能エネルギー創出・資源回収、震災時の上下水道施設の被災とその影響予測、および震災影響緩和と対策等について研究を進めています。



木村 義成 KIMURA Yoshinari

文学研究科 / 准教授
地理情報学 / 博士(学術)
主な研究テーマは、安心・安全分野における地理情報の活用です。具体的には、救急医療におけるアクセシビリティや災害発生時の対応を、地理情報システム(GIS)を用いて分析しています。



小池 志保子 KOIKE Shihoko

生活科学研究科 / 准教授
住居設計学 / 博士(工学)
建築ストックの活用は、少子高齢化や空き家などの都市問題解決に貢献します。建築ストックとは、過去に建築された空き家や老朽化している建築資産のことを指し、そのような建物をリノベーションすることは、空き家の解消に留まらず、地域の活性化やコミュニティの形成につながります。このような建築ストックを活用するためのリノベーションデザインに取り組んでいます。



小伊藤 亜希子 KOITO Akiko

生活科学研究科 / 教授
住生活学 / 博士(工学)
住居学を専門分野とし、家族と住み方、伝統的住宅の保全活用、子どもの居住環境などについて研究しています。大阪近代長屋の研究や、本センターが共催するオープンナガヤ大阪の開催にも取り組んでいます。



小島 久典 KOJIMA Hisanori

リハビリテーション学研究科 / 講師
リハビリテーション科学 / 博士(保健学)
リハビリテーション専門職である作業療法士として障がい者の避難や避難所における生活環境の構築に関する技術や知識を広く伝達するために障がい者の避難誘導方法の指導について研究しています。また、東日本大震災における障がい者の避難の実態、問題点や被災時の障がい者に対する必要な技術・知識を明らかにしたいと考えています。



齊藤 紘子 SAITO Hiroko

文学研究科 / 准教授
日本近世史 / 博士(文学)
近世和泉国を中心とした地域社会史や、近世大阪の都市社会史などを研究しています。著書「畿内譜代藩の陣屋と藩領社会」清文堂出版、2018年。



佐伯 大輔 SAEKI Daisuke

文学研究科 / 教授
行動分析学 / 博士(工学)
私がUReCで携わる活動は主に以下の2点です。
・UReCが実施する防災教育プログラムについて、教育効果を測定することにより、防災教育プログラムの有効性を検証する。
・学習心理学や行動分析学の観点から、防災行動の学習を促進する要因を明らかにし、防災教育プログラムの開発に役立てる。



重松 孝昌 SHIGEMATSU Takaaki

工学研究科 / 教授
河海工学 / 博士(工学)
流体工学の観点から、水災害に関する研究を行っています。津波避難シミュレーションの開発、外水氾濫・内水氾濫の高精度予測手法の開発、津波潜水期間の推定などに取り組むとともに、複合水災害による被害推定、地下空間への浸水伝播特性に関する研究などにも取り組んでいます。



菅野 拓 SUGANO Taku

工学研究科 / 准教授
人文地理学・都市地理学・サードセクター論・防災復興政策 / 博士(文学)
NPOなどサードセクターの活動を継続的に調査・実践しています。また、近年の大規模災害を踏まえ、被災者生活再建支援法のモデル化を行っています。最近の主な委員として復興庁「多様な担い手による復興支援ビジョン検討委員会」ワーキンググループメンバー、厚生労働省「内閣府(医療・保健、福祉)と防災の連携に関する作業グループ」参考人など。



鈴木 雄太 SUZUKI Yuta

都市健康・スポーツ研究センター / 准教授
バイオメカニクス / 博士(体育科学)
都市防災部門では、災害の発生に対応する自助・共助の力を高めるために必要な知識や技術について研究しています。特に、自力避難および要援護者の避難に必要となる健康や体力指標について研究を進めています。



高田 洋吾 TAKADA Yogo

工学研究科 / 教授
ロボット工学 / 博士(工学)
人が簡単に立ち入れない場所に入ることができる小型かつ高機能的なロボットについて研究しています。プロジェクトでは、被災者の自力避難に繋がる携帯型機械について検討しています。



瀧澤 重志 TAKIZAWA Atsushi

生活科学研究科 / 教授
空間情報解析・避難計画問題 / 博士(工学)
建築・都市計画分野における数理モデル化や情報科学技術の活用に関する研究がテーマです。防災関連では、主に避難計画の数理モデル化に関する研究を行っています。現在は、南海トラフ大規模地震の大阪府全域を対象とした津波からの2次避難や、建築スケールで避難して時間を最小化するアルゴリズムの開発等に専らしています。



立見 淳哉 TATEMI Junya
経済学研究科/教授
経済地理学/博士(地理学)
経済地理学、特に産業集積論が専門です。資本主義の変化を念頭に置き、都市・地域の盛衰に関して研究を行っています。最近、特に人々(財、地域など)の「価値づけ」という主題に取り組んでいます。[もう一つの地域経済]の可能性についても関心を持っています。



辻岡 哲夫 TSUJIOKA Tetsuo
工学研究科/准教授
通信工学/博士(工学)
災害時の人の位置を推定・トラッキングする技術とそのための位置推定通信ネットワークについて研究しています。また、視覚障がい者のための行動支援技術や、健康の維持・改善に役立つ計測装置及びシステムの研究開発も行っていきます。



角掛 久雄 TSUNOKAKE Hisao
工学研究科/准教授
コンクリート構造/博士(工学)
生活基盤であるインフラ構造物に対して、安全かつ安心な生活のためにコンクリート構造物の長寿命化および耐力向上を目指した研究を行っています。具体的には、既設コンクリートの耐久性の検証、耐久性向上とともに耐力向上のための補修・補強工法の検討を行い、健全なインフラ構造物を維持するために日々研究を行っています。



手塚 洋輔 TEZUKA Yosuke
法学研究科/教授
行政学/博士(学術)
内閣中樞から自治体の現場まで、多彩に展開される行政活動の実態を、行政の過程に注目しつつ研究しています。今後ますます資源制約が厳しくなることを踏まえ、行政の危機対応のあり方や、被災者支援といった災害復興の仕組みについて検討をします。



中島 義裕 NAKAJIMA Yoshihiro
経済学研究科/教授
複雑系経済学/博士(理学)
エージェント・ベース・シミュレーションにより、多様な意思決定の相互作用がもたらす巨視的動態を研究しています。G・O・S1副専攻のソーシャル・イノベーション教育と社会連携に関する研究とを両輪に進めていきたいと思ひます。



中條 壮大 NAKAJIO Sota
工学研究科/准教授
海岸工学/博士(工学)
台風による高潮災害をはじめとして、気象・海象災害を対象に研究を進めています。現在の災害想定における課題抽出や最悪シナリオ分析とその頻度解析、減災型社会に求められる情報提供のあり方について明らかにしていきます。また、将来の気候変動が災害特性に及ぼす影響評価についても研究しています。



西野 雄一郎 NISHINO Yuichiro
工学研究科/講師
建築計画/博士(工学)
空き家をはじめとする遊休建築ストック問題や地域コミュニティの衰退といった社会課題に対して、建築ストックのリノベーション(改修による再生)するプロセスのデザインや計画・設計方法、および建築リノベーションを起点とする地域再生について研究を行っています。また実際の空き家を研究室でリノベーションする(設計も施工も)など、研究成果を実際の地域で実践する活動も展開しています。



沼田 里衣 NUMATA Rii
文学研究科/准教授
臨床音楽学/博士(学術)
即興音楽療法に関する研究をスタートしましたが、社会に開かれた音楽活動の必要性を感じ、2005年より知的障害者と音楽家、音楽療法家が新しい音楽表現の地平の開拓を目的に活動する「音遊びの会」主宰(〜2017年)、2014年よりおとそび工房(〜2021年)を主宰しています。音、声、からだ、こころを使って様々な人々との対話を繰り返しながら思考する実践、臨床音楽学研究として進めています。



根本 達也 NEMOTO Tatsuya
理学研究科/准教授
情報地質学/博士(理学)
地下地質構造を表す3次元地質モデルの構築方法や可視化方法について研究しています。現在の災害想定における課題抽出や最悪シナリオ分析とその頻度解析、減災型社会に求められる情報提供のあり方について明らかにしていきます。また、将来の気候変動が災害特性に及ぼす影響評価についても研究しています。



畠山 典子 HATAKEYAMA Noriko
看護学研究科/講師
公衆衛生看護学/ヘルスプロモーション科学/修士(看護学)
地域減災及び、住民参加型の減災活動。災害時の健康二次被害削減のための地域実践型の具体的な取り組みを、地域や公衆衛生看護の観点から、住民や大学、自治体と共に研究しています。大規模自然災害時の保健師活動の実践を踏まえ、今後の災害への備えについて皆様に一緒に検討し、社会実装することにより、有事のみならず平時においても地域住民のQOLの向上へと貢献できればと思います。



花村 周寛 HANAMURA Chikahiro
現代システム科学研究所/准教授
環境美学/風景異化論/ランドスケープデザイン/博士(緑地環境科学)
風景という角度から、都市環境に対して人々が向ける「まなざし」を研究しています。また現代アートや数値データ、ワークショップなどの手法を用いて、都市に向ける人々のまなざしを設計することで、風景を容受させる風景異化論を提唱し、実践的な研究を行っています。



平谷 優子 HIRATANI Yuko
看護学研究科/教授
小児看護学/家族看護学/博士(保健学)
防災について、小児看護学・家族看護学の視点から研究しています。



弘田 洋二 HIROTA Yoji
生活科学研究科/特任教授
臨床心理学/博士(学術)
都市における生活の安全と安心について個人のwell-beingの実現という観点から調査と研究に取り組んでいます。社会的条件不利を抱えた成人、若者、子どものうち、これまで可視化され探求されなかった問題を深めるとともにまだ十分にわかっていない層を抽出して問題を提起し探究しています。



福島 祥行 FUKUSHIMA Yoshiyuki
国際基幹教育機構/文学研究科(兼任)/教授
相互行為論(弱いロボットの思想)/博士(文学)
相互行為論の立場から、コミュニケーション、言語教育/学習、境界論など、人々のやりとりや学びのメカニズムを研究しています。その研究を応用して、演劇活動を例として、小さなコミュニティが社会的レジリエンスをうむことで、防災・減災につながることを実践しようとしています。



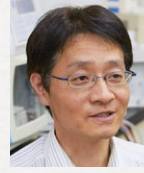
福田 美穂 FUKUDA Miho
生活科学研究科/准教授
人間・環境学/博士(人間・環境学)
研究対象は、大阪市内で大正期に建てられ、式合持つ格調の高い住宅と、そのまわりの長屋群です。この建築群そのものが非常に貴重で、姿を留めつつある風景が残るだけでなく、その大家が住宅正期の姿を留めて、しかも大家がずいぶん住み続けてきたことから、住まい方にも定めます。1950年代以降の暮らし方を解明するべく年行事や調度、つづきを調査しています。現在、台湾で同様な調査をおこなう共同研究を計画中です。



古川 幸 FURUKAWA Sachi
工学研究科/講師
建築構造工学分野/博士(工学)
地震・暴風を想定した建築物主要構造物・非構造物における接合部の損傷メカニズムを把握し接合部の耐力評価法を確立することで、災害リスクを低減することを目的とした研究に取り組んでいます。



松竹 貴大 MATUTAKE Takahiro
都市健康・スポーツ研究センター/助教
スポーツ心理学/コーチング学/博士(コーチング学)
都市防災部門では、災害の発生に対応する自助・共助の力を高めるために必要な知識や技術について研究しています。特に、自力避難および要援護者の避難に必要となる健康や体力指標について研究を進めています。



水谷 聡 MIZUTANI Satoshi
工学研究科/准教授
廃棄物管理工学/博士(工学)
有害廃棄物の適正な管理手法や、副産物を有効利用する際の環境安全品質管理手法の確立に取り組んでいます。大阪市の建物ストックに由来する災害時の崩れき発生量を推定したほか、近年はPRTR制度を活用し、災害時の事業所からの化学物質漏洩事故による環境汚染の防止対策について研究しています。



三田村 宗樹 MITAMURA Muneki
理学研究科/教授
都市地質学/博士(理学)
大阪平野の第四紀層の層序学的研究を進め、その分布・地質構造を基に、大阪平野地下の3次元地盤構造をまとめました。これらをもとに、平野地下の地盤特性と地盤災害・地盤環境などとの関係について検討を行っています。また、アジア地域の地盤問題などについても海外研究者とともに共同研究を行っています。



村川 由加理 MURAKAWA Yukari
看護学研究科/講師
急性期看護学・災害看護学/修士(看護学)
市民の災害医療教育の向上、災害時の健康問題に対する対策の向上、避難行動要援護者への支援の充実。



山口 隆司 YAMAGUCHI Takashi
工学研究科/教授
橋梁工学/鋼構造学/博士(工学)
災害時に橋梁が落橋した場合を想定し、72時間以内に架設ができ、大型車の通行が可能な緊急架設橋梁を実現するための部材接合技術について、実験と解析の両面から研究を行っています。



山崎 孝史 YAMAZAKI Takashi
文学研究科/教授
政治地理学/冲縄研究/Ph.D.
冲縄県冲縄島内の基地所在市町村(特に沖繩市コザ地区)の戦後地域史とその境界都市性の解明、および大阪府・市の統治機構再編をめぐる都市政治の地理学的分析を進めています。



山田 卓 YAMADA Suguru
工学研究科/准教授
地盤工学/博士(工学)
地震による地盤の液状化問題について、液状化発生の予測や対策技術に関する研究を行っています。



横山 久代 YOKOYAMA Hisayo
都市健康・スポーツ研究センター/教授
糖尿病/運動療法/博士(医学)
都市防災部門では、災害の発生に対応する自助・共助の力を高めるために必要な知識や技術について研究しています。特に、自力避難および要援護者の避難に必要となる健康や体力指標について研究を進めています。



横山 美江 YOKOYAMA Yoshie
看護学研究科/教授
ヘルスプロモーション科学/博士(医学)
「コミュニティ防災教育プログラム」における災害時の医療と避難所の健康問題に関する教育プログラムの開発を担当しています。その他、防災研究は、東日本大震災後の保健師活動についての研究にも携わりました。



吉田 大介 YOSHIDA Daisuke
情報学研究科/准教授
空間情報学/博士(創造都市)
老朽化や人材不足など様々な課題をかかえる都市インフラを、ドローンや地理情報システム等のICTを活用することにより、効率的かつ安全に維持管理がおこなえる手法について研究を進めています。このような技術は、防災・減災や地域の見守りなど様々な応用が考えられており、自治体や民間企業と連携し、持続可能なまちづくりにつながる研究・開発について取り組んでいます。

特任教員
宮野 道雄 MIYANO Michio(特任教授)
中川 眞 NAKAGAWA Shin(特任教授)
中尾 正喜 NAKAO Masaki(特任教授)
潘 山海 PAN Shanghai(特任准教授)
綱島 洋之 TSUNASHIMA Hiroyuki(特任講師)
鄭 榮鎮 CHUNG Youngjin(特任講師)
櫻田 和也 SAKURADA Kazuya(特任講師)
河本 ゆう子 KOMOTO Yuko(特任助教)



吉田 長裕 YOSHIDA Nagahiro
工学研究科/准教授
交通工学/交通計画/博士(工学)
陸上交通の交通安全に関して、学際的なアプローチで研究活動に取り組んでいます。研究テーマは、アクティブ交通、交通弱者の交通行動、交通事故リスク評価、交通安全に関する政策、交通事故回避のための先進技術の評価に取り組んでいます。直近では、COVID-19状況下の交通行動、歩行者混雑状態の解析、自転車を対象とした文意点設計、新興国における交通安全に関する技術支援などの研究活動に関わっています。



米澤 剛 YONEZAWA Go
工学研究科/教授
空間情報学/博士(理学)
ベトナムの都市を主な研究対象地域とし、現地調査データから高精度DEM(数値標高モデル)の作成やボーリングデータを用いた3次元地質高モデルの構築、GISやリモートセンシングを用いた都市変容に関する研究を行っています。

